

鏡筒を仕分けされそうな太田

【幻のツチノコ捕獲】

短い蛇のような生き物...ではない。アナログ時代の鏡筒で、ツチノコとして有名なPENTAX 100SDUFを昨年入手した。HAL130三脚が出ていないかいつも中古関係のホームページを徘徊していたところ、某中古ショップにそれがUPされていた。程度が特Aクラスだったこと、生産中止だったこと、精密ガイドをしない短時間撮影には明るい鏡筒が有利であることの理由で即決。また、ハートレイ彗星が南下している頃でもあった。欲しいと思った時が買い時。専用のケースも付属しており、レンズも外観も極上品で非常に満足。欲を言えば100SDUF II や105SDPなどの方が良かったと賛沢...。こんな鏡筒はすぐに売れてしまうのに、買えただけでもラッキー。

この鏡筒の元祖は100EDUFで、ハレー彗星の頃に発売されたが青ハロや周辺減光が目立った。その後改良されたSDUFになり、更に改良されたSDUF II になっている。

【100SDUFの遠い記憶】

この鏡筒といえば、かなり前から浦島状態になっているA立さんを思い出す。臼杵の実家の庭先で観望会をした際に、アイピースを付けて見せてもらった。その時の星像のシャープなこと(殆ど記憶が薄れたが)。当時はシュミカセしか持っていなかったのもその甘い像を見続けていた私にとっては、眼に突き刺さるくらいシャープ(東芝社員なのに)だった。また、その時に見たNikonの10cm屈折の安定感といったら書き表せない。私のC11EXと並べて比較した木星は完敗だったような(そっちの話はどうでもよいのだ)。

当時から写真撮影をしていたので、その鏡筒にはある程度興味はあった。しかし、当時の定価は330,000円で容易に手の出るシモノではなかった。また、その鏡筒をFさんが拝借して素晴らしい百武彗星を撮っており(あの時暴走車に轢かれそうになった)、彗星の発色は鮮明に記憶している。

【鏡筒バンドが無くては】

鏡筒を購入するのは良いが、その径の鏡筒バンドを持ち合わせていなかった。あるにはあるのだが、GP-ED102Sのセットを将来有望なY師寺君に貸している。そこで、適合するバンドが無いかショップに確認すると、PENTAXオリジナルのBH-115Nが在庫とのこと。これまたラッキーなので同時購入を即決。

ここまでくればあとはリング。鏡筒の到着予定日に津へ免許証更新へ行き、その足で某ショップへ冷やかしに行く。まさかと思い「PENTAX鏡筒用のNikonリングは無いですよ」と聞くと1個だけ在庫ありとのこと。これまたラッキーすぎて購入即決。しかしPENTAX品はどれも高価であり、このリングでも6,000円以上する。なしか。まあ、純正品を揃えておけば困ることはないかと割り切る。後で分かったことだが、後述の2インチスリーブからB社のリングを使えば、高価なリングを購入する必要は無かったのかな。

【赤道儀に搭載できない】

これでOKかと思ったがGPD2赤道儀に搭載できない。アリガタが必要である。ここはとりあえずBORG76EDで使用しているアリガタを使用することにした。鏡筒バンド裏側には35mmピッチのカメラネジがあったのでそのまま流用でき、暫くそれで使用することにした。後日名古屋の熱田神宮に出掛けたいので某Sベースに寄った。TOA150+EM400を見て「やはり一家に一台タカハシ」としみじみ思った。思ったついでにアリガタスライドバーがあるか聞いてみた。望遠鏡類は常に車内にあるため鏡筒バンドもあったので現物合わせ。穴位置も適合するのでショップオリジナルのアルミ製スライドバーを購入。

そんなに何本も必要なんですか？
1本じゃダメなんですか？



1000279号です

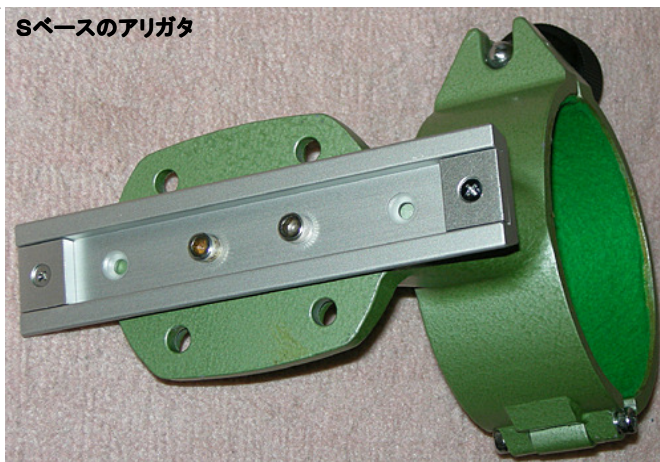


その時に気が付けばよかったのだが、固定用のカメラネジも必要だった。当面は固定ネジを76EDと共用にするしかない。2本の鏡筒を同時に赤道儀に搭載できる訳ではなかったのもそれでも良かった。ただネジを付け替えるのが面倒なだけである。ネジは帰省した際に持って戻り、無事それぞれの鏡筒にアリガタを装着し一件落着。

76ED用アリガタで
とりあえず撮影



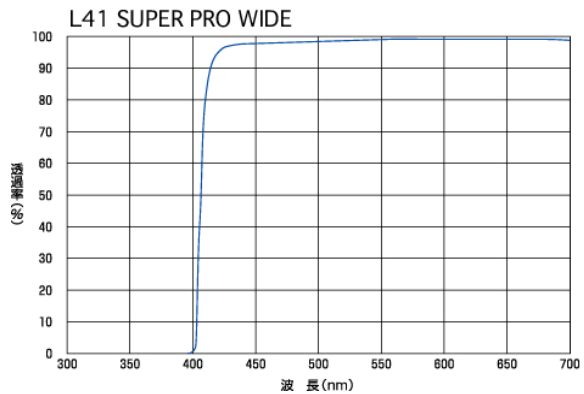
Sベースのアリガタ



【激しい色収差】

とりあえず撮影できる状態になった時点で、バーチノフマスクをプリントアウトしピント合わせをして彗星などを試写してみると。ん～、色収差(紫ハロ)が目立つね～。ネットで検索してみると、フィルムでは目立たなかったがデジカメではシビアに現れるとのこと。それは事前に調べていたことだがここまでひどいとは。L41フィルタを入れることで軽減できるため、某メーカーのアウトレットコーナーにてL41フィルタを見つけ購入。それを装着して撮影すると明らかに色収差が魔法のように軽減され、ある程度満足できるレベルになった。その分M42の赤味も薄れたよ。L41フィルタの特性は右図のように420nm付近以下をカットする。実際の撮影画像では、特に輝星に発生する紫色を効果的に改善しているのがよく分かる。

あとは光害対策用フィルタがあれば…。それはI社が製作しているが、適合する径のものは生産中止となっているためとりあえず保留とする。LPS-P2Iに関してはI田さんが会報で詳しく解説してくれている(やられた)。



フィルタは鏡筒付属のスリーブにねじ込み(58mm)



【オリジナル品は高価】

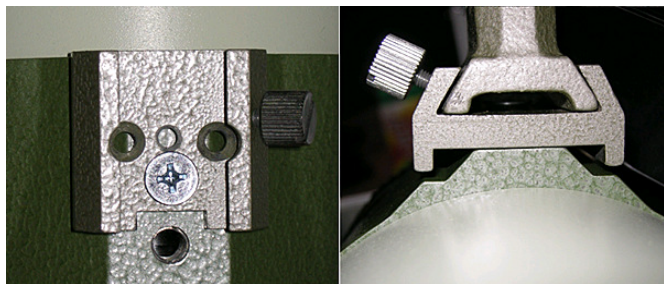
明るい恒星が近くにある場合はカメラのファインダーを覗いて導入することはできるが、そうでない場合もある。ある時、アパートの前でハートレイ彗星を強引に撮影しようとチャレンジしたことがあるが、明るい空の下でカメラのファインダー越しにM46M47など見えるはずもなく、適当に何枚か撮影したがそれらしきところが入っていなかった。この時ばかりは鏡筒用ファインダーの必要性を感じた。

GPD2はSkysenser2000PC仕様なので自動導入機能を使えばよいのだが(一度自動導入したことはある)、乾電池で使っているため少しでも無駄な動作はさせたくないだけである。いえいえ、ただの面倒くさがり屋さん。

オリジナルのファインダー脚の在庫があるショップもあったが、とにかく高価である。V社用のファインダー台座の予備を持っているのでそれを固定することはできそう。そこで、またホームページで調べてみると、V社用の台座を固定している人を発見。私と同じく高価だという理由だけ

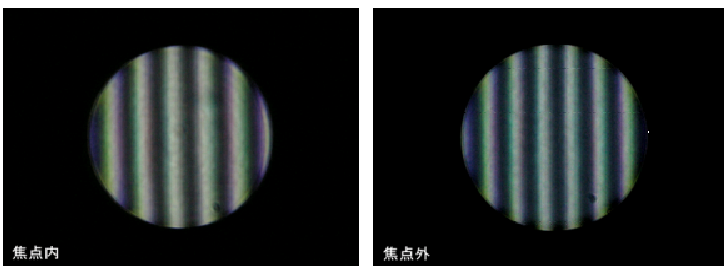
でそのようにしたとのこと。考えることは同じだ。ファインダー脚に関してはオリジナル品をあきらめることにする。

V社用の台座とファインダー脚は旧GPカラーであり、PENTAX色に割りと近いためそれ程の違和感はない。これでいいじゃないか。手持ち工具が無いので、台座への穴加工は正月に帰省した際に行った。M6サラネジ1個による固定であるが直接締めてもガタつきはなく良好。滑り止めにゴムシートなど敷く必要があるかと思ったが全く不要である。



【なんちゃってロンキーテスト】

K映舎の一眼レフ用ロンキー式ピントアダプタを使用して、簡易的に撮影してみた。アダプタをカメラのようにTリングに固定し、コンパクトデジカメをガラス面に押し当てて手持ち撮影。使用した恒星はシリウスで、シンチレーション及び手持ちの関係で縞模様が歪んで見るところもあるが、これで十分と言える程度に真っ直ぐに見える。とても優秀なレンズであることが判る。



【眼視観望だってへっちゃら？】

2インチアイピースを使用する際は専用のアダプタが必要である。これも高価なので何とかならないかと手持ちのパーツを合わせていると、BORGの2インチ延長スリーブが使えることが分かった。そのままでも良いが若干ガタがあるので、スリーブの外周にテーピングを少しするだけで丁度良い具合になった。延長スリーブはアイピースを直接固定できるようになっているためアダプタは不要である。

アメリカンサイズアイピースを使用する際も専用のアダプタが必要になり、これもまた高価。前述の2インチからの変換アダプタを使用すれば問題なし。

天頂方面を見たい場合はプリズムを使用したいが、そのままではアイピースがピントのかなり後方になるためNG。これは1.5倍パローを併用することでピント的にはOKとなる。但し、本来の倍率では見られなくなるので妥協するしかない。どちらにしても、この鏡筒で観望することは滅多にないので深く考えないことにしよう。標準構成として、ツァイスサイズのアダプタが付いているが今時必要ない。

実際に見たアバウトな感想としては、月程度なら結構楽しめるが、月のリムに色が付いて見えたりするが、リム以外のクレータはシャープでクリアに見え十分に迫力がある。h-χやM42なども見て楽しいと感じる。輝星の色収差については、写真で見ると感じないので予想以上には楽しめる。土星に関してはシーイングの影響もあるが、本体と環がハッキリと分離して見える(400÷4×1.5=150倍)。木星も、しっかりと観察するには倍率不足となり仕方ないところ。

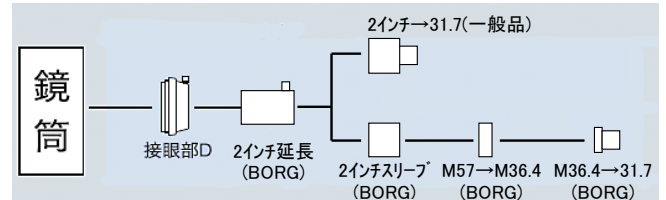
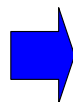
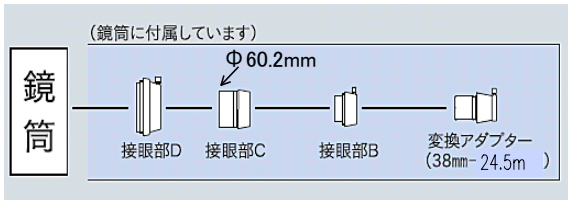
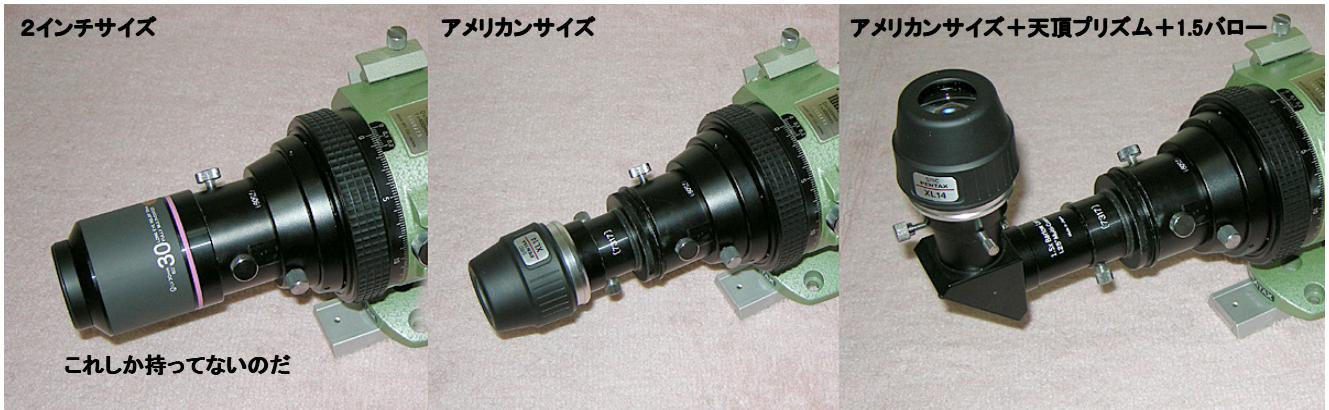
本鏡筒は写真専用設計のため眼視の場合は性能が発揮できないようだが、そこまでシビアな眼を持っていないのと、そういうものだと割り切れば気にする必要は無いと思う。



土星を撮影したが、本体の濃淡が分かる程度に写った。ビデオでコンポジットすればもっと写りそうな…。これは本来の発色ではない。



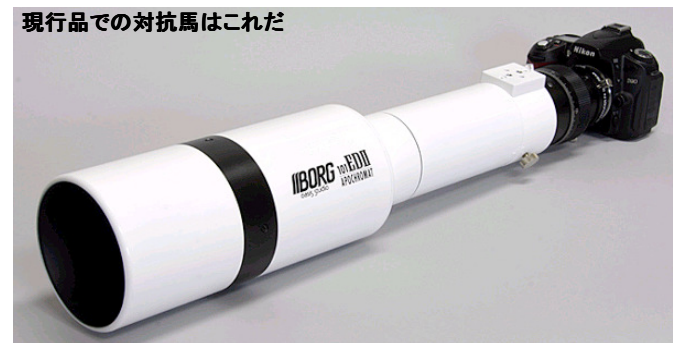
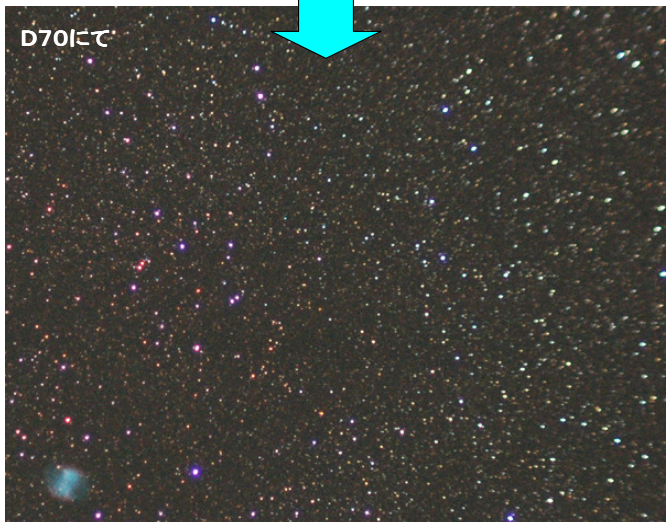
金星(モノクロ)はこんなものでしょう。



【関係ないけど】

この鏡筒の対抗馬としては生産中止のB社100ED F4が、現行品だと同101ED II F4仕様があるだろう。100EDは中古で同様の価格で以前から某ホームページに掲載されていたが、やはりなぜか超一流メーカー品を選んでしまった。手放すことがあるとしても高価で売れることも期待したりする(手放さないが)。

また、類似スペック品としてはV社AV103SSがある。アクロマートで安価なため、お気軽撮影に適している。以前、久住の観望会で借用して(借り物競争大好き)AV102SSのレデューサ無し直焦撮影させてもらったが、各収差が激しく良像範囲が狭い。コストパフォーマンス的には非常に良い鏡筒であったが、100SDUFと比較するには無理がありすぎる。それが右の画像である。画像の右上1/4をトリミングしたもの。M27が中心部となるが、それにしても収差が激しい。



【風景画像】

部屋から見える鉄塔を撮影。直焦及びアイピースでの拡大撮影を試みた。アバウトな撮影だが、そこそこシャープに撮れる。但し、予想ではもっとシャープな画像を期待してしまったので、撮れた画像を見てちょっとガッカリしてしまった。この紙面上では画像が小さいのでそれが良く判りにくい。





【 月齡9.4 】

2010-11-15 22:23
PENTAX 100SDUF
PENTAX 2倍リアコン強制使用
GPD2赤道儀
Nikon D70
ISO500 1/400秒



【 月齡11.2 】

2010-11-17 19:19
PENTAX 100SDUF
LV25mm + 1.5倍パロー
GPD2赤道儀
Nikon COOLPIX P5000
ISO200 1/500秒



2010-11-5
PENTAX 100SDUF
GPD2赤道儀
Nikon D70
ISO1000 241秒
L41フィルタ無し
PhotoShopにて色補正



2010-11-5
PENTAX 100SDUF
GPD2赤道儀
Nikon D70
ISO1000 150秒
L41フィルタ無し
PhotoShopにて明るさ調整のみ



いら
ない
いら
ない。

タカハシ TOA-1500 鏡筒
口径 150mm 全長 1.50m 重量 12.2kg
目鏡 27mm 副目鏡 22mm 視野 46.5°
解像力 1.70" 集光力 11.0x 実長約 19.2m
付属品: 7×37mm 目鏡1、2×24mm 目鏡2、TAPU7、NEP-2
TOA-1500T2W (TA0072M) 価格 ¥1,249,500
TEL: 029-271-1111 FAX: 029-271-1112
〒300-0202 茨城県水戸市大塚1-1-1 電話: 029-271-1111

タカハシ EM-400 Terra2M 赤道儀
口径 150mm 全長 1.50m 重量 12.2kg
目鏡 27mm 副目鏡 22mm 視野 46.5°
解像力 1.70" 集光力 11.0x 実長約 19.2m
付属品: 7×37mm 目鏡1、2×24mm 目鏡2、TAPU7、NEP-2
EM-400T2W (TA0072M) 価格 ¥943,950
TEL: 029-271-1111 FAX: 029-271-1112
〒300-0202 茨城県水戸市大塚1-1-1 電話: 029-271-1111

一家に一台
タカハシだよね。

2010.11.12 12:49